

# 京都府知事賞

## 「ネット社会における『見る』ということ」

亀岡市立南桑中学校 3年  
堤 菜々

私はツイッターユーザーです。ツイッターには色々な人がいます。素敵な作品を投稿する人、面白い写真や動画をアップロードする人、日々の何気ない出来事を呟く人と様々で、見ていて本当に飽きないSNSで、個人的にはとても好きなサービスです。しかし、そのツイッターを見ていて、とても不快になったことがあったのです。

少し前の休日のことでした。久しぶりにゆっくりできるのをいいことに、いつものように私は、だらだらとツイッターを見ていました。そして、そこに「自殺」という文字がトレンド入りしているのを見つけました。その日私はニュースを見ていなかったのに、「何かあったのか」と知りたくなってページを開きました。どうやらその日大阪で、ビルの屋上から転落した人がいたらしく、大きな話題となっていたようでした。「現場を見た。」「びっくりした。」「どうして？」等、呟きが多々寄せられていました。私は人が死んでしまう瞬間を目の当たりにしたことがないので、少し怖くなりました。スマホの画面から目が離せなくなり、下へ下へとスクロールしていくと、そこには、目を疑うような光景が広がっていたのです。

「消されてしまったので再掲します笑」という短い文章と共に、添付されていた動画。実際の現場で撮られたと思われる動画は、私の「本当は見たくない。」という気持ちなど構うことなく、勝手に再生されてしまいました。人が転落していく映像が目飛び込み、「パン！」という破裂音のような爆音が、イヤホンから流れ込んできたのです。私は気分が悪くなり、イヤホンを耳から外し取りました。心臓がばくばくしていました。「この人は一体、どんな気持ちでこの動画を撮ったんだろう」そう思いました。そのツイートのリプライ欄には、「おい、今すぐ消せ。」「わざわざ載せるな。」と、投稿者を批判する声がたくさんありました。しかし、「こいつ、アホじゃねーの。」「自殺とか馬鹿だろ。」と面白がり、自殺した人を馬鹿にするようなリプライも同じくらいたくさんあり、とても残念な気持ちになりました。

命は、どの人の命も尊く、大切なものです。何があっても、馬鹿にされて良いものではありません。自ら命を絶ってしまった彼女のことは、私には何一つわかりませんが、彼女の命も、かけがえないこの世にたった一つの宝物であったはずで、その大切な大切な命を、自らの決断で終わらせなければならなかった彼女。その決断に至るまでには、相当な苦悩と葛藤があったに違いありません。彼女は、ビルの屋上を自らの死に場所を選びました。もしかしたら彼女は、「自分の生きた証」を残すために、「不特定多数の人が見ている所」を選んだのかもしれませんが。そんな彼女の苦悩や葛藤、生きた証が、好奇の眼、無機質なカメラのレンズに捉えられ、インターネットの冷たい海に放り出され、人目に晒され、叩かれ、嘲笑われている。「いいね」やリツイートの反応稼ぎのため、投稿者のちっぽけな承認欲求のために、一人の命が、エンターテイメントのように扱われている。目の前で起きているネット社会の参状に、私はとても腹が立ちました。

SNSは、ここ数年で一気に私たちの生活に浸透してきました。あると便利で重宝するSNSですが、最近では不快になる投稿も多いように思います。公共施設での悪質行為を動画で投稿したり、嘘やデマの内容を投稿して混乱を招いたり、社会問題となる投稿もよく見かけます。そしてそれは、メディアで報道され、議論もされるようになって、広く問題視されるようになってきました。急速に情報化が進み、ネット社会になった今だからこそ、SNSの本質を見極め、あり方を見直していく必要があると、私は思います。

普段の日常生活の中で起きる面白いこと、楽しいこと、嬉しいこと、悲しいこと、腹の立つこと、驚いたこと、それらのこと全てに、まず合わせるの、あなたの「目」、「心の目」です。カメラのピントではありません。「目」を合わせ、「心の目」で見極め、しっかりと判断していくことが大切です。何でもまずは、「目」を合わせて物事を見ていきましょう。一件の「いいね」、一件のリツイートよりも大切なことが、きっと見えてくるはずだと私は思います。